

令和3年度 山梨県立韮崎工業高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	ものづくりを通して地域産業界に貢献できる技術者の育成
-----------	----------------------------

山梨県立韮崎工業高等学校校長 飯嶋 清二

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、総合人間力の育成に努める	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)	評価	4 良くできている。
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現に努める			3 できている。
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成に努める			2 あまりできていない。
	4 社会的自立・職業的自立に向けた力を身に付けた、工業のスペシャリストを育成する			1 できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(令和4年2月1日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的な生活習慣を確立し総合人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。 ②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。 ③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、ボランティア活動等を実施し、環境美化意識及び愛校心、社会貢献精神の涵養に努める。	各月ごとの数的推移 実施結果の検証 アンケート及び実施結果の検証	・特定の生徒が遅刻する傾向がある。これら生徒は家庭や精神面で問題を抱えており、生徒支援員によるカウンセリングを実施しながら、改善を図った。 ・学校周辺での自転車のルール違反が指摘されている。 ・本年度もコロナ禍により、独居老人宅訪問ボランティアは実施できなかったが、甘利山清掃活動は、実施できた。	B	・精神面で問題を抱える生徒に対しては、生徒支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と協力して今後も支援していく。 ・自転車のルールやマナーについては新入生を中心に指導していく必要がある。 ・あけぼの支援学校との交流も、コロナ禍により十分に実施できなかった。
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。 ②基礎学力が不十分な生徒への補足的な課外学習等に努める。 ③進路実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	授業アンケートと授業観察 基礎力テストの結果の検証 アンケート及び進路実績の検証	・学校評価アンケートでは、87%の生徒が「先生はわかりやすい授業を工夫している」と回答。また88%の生徒が「テストの得点だけでなく、様々な観点から評価してくれる」と回答している。 ・家庭学習に取り組んでいる生徒は57%と、昨年よりわずかだが増加している。 補足的な指導については88%の教員が実施している。 ・進路行事については、コロナ禍により、縮小・中止せざるを得なかった。	A	・コロナ禍により、分散登校や家庭学習日等を行ったため、学習時間の確保が今後の課題である。 ・家庭学習に取り組む生徒が多くなったことは、コロナ禍でのメリットといえる。この習慣を維持していかなければならない。 ・コロナ禍でも対応できる進路指導を充実させ、進路実現を目指す。
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。 ②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、時間外勤務の削減と部活動の活性化の両立を図る。 ③生徒が主体的に取り組める学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	アンケート及び活動実績の検証 活動実績の検証 実施後アンケート結果	・コロナ禍により、生徒会行事が軒並み縮小・中止となり、従来通りの生徒会活動の実施は困難であった。 ・部活動での大会は、昨年ほどではないが一部中止となった。年明け以降に部活動も自粛となり、満足できる活動はできなかった。 ・学園祭も開催方法を検討したが、体育部門のみの実施にとどまり、文化部門の活動ができなかった。ただし、生徒の満足度はある程度高かった。	B	・縮小されたとはいえ、何とか学園祭を実施できたことは、生徒の自主自立の精神の向上につながった。 ・新型コロナウイルスが収束するまでは、例年通りの行事や部活動は難しいが、生徒のモチベーション低下を防ぐためにも、感染症対策と両立できる内容や実施手順を引き続き検討していく。
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。 ②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。 ③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	実施後アンケート結果 取得実績の検証 取得実績の検証	・企業実習の実施は難しかったが、企業を招いての説明会など、代替となる行事等工夫しながら実施したことで、進路決定100%を達成できた。 ・地域連携ものづくり事業を活用した資格取得の講習会等や、外部機関と連携した指導が実施でき、資格取得の充実につながった。	A	・地域産業界にて活躍できる人材の育成は、工業高校である本校の使命である。コロナ禍により、例年通りの進路行事等が実現できない今は、新たな指導方法を検討していくチャンスともいえる。進路決定100%を継続するため、今後も引き続き指導を充実していく。 ・外部機関との連携は今後も末永く実施していく。

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月4日)	
評価	意見・要望等
4	・全教職員が情報を共有し、生徒理解、生徒指導に当たっていると思う。今後さらに「カウンセリングマインド」を深め、生徒と接することで指導の成果が一層高まると思う。 ・新聞の10代の声のような投稿に、韮崎工業の生徒がよく出ている。皆しっかりとした考えを持っているのを感じた。 ・地元自治会の人たちからも話が出ているが、韮崎工業の生徒は本当にあいさつをよくしてくれている。 ・地域のボランティア活動は、生徒にとっても地域にとっても大きなメリットがある。コロナ禍で大変だが、途切れることがないようお願いしたい。
4	・生徒の将来を考えた熱心な進路指導は多くの卒業生にとって、本当に役に立っていると思う。 ・多くの卒業生が韮崎工業で学んで良かったと思えるようにしてほしい。 ・生徒の興味関心を引き起こすような学習内容、授業の工夫などを行っていくことが大切。 ・授業を見せてもらったが、今の時代に合った内容であったり、基礎的な内容であったりして、基礎から今の内容までうまく伝えられていると感じた。
4	・生徒会活動、部活動、各種ボランティア活動等を経験し、活躍した生徒は、社会に出てからも地域で活躍し、必要とされる人材になると思う。 ・人権教育が大切だと思う。様々な個性を持つ生徒が、互いの人権を認め、大切に育てることが重要。 ・本校の活動をSNSに多く取り上げてもらい、本校の活躍を広く世間知ってもらおうと。
4	・コロナ禍で中止となってしまったが、課題研究発表会を見たかった。 ・資格取得は本校の一番の売り。資格取得、技能検定への取り組みをこれからも高めていってほしい。 ・離職率は、全国平均が30%くらいのところ、本校は10%と非常に良い。 ・先生方が企業訪問などでフォローアップしている成果が離職率の低下として出ていていると思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

